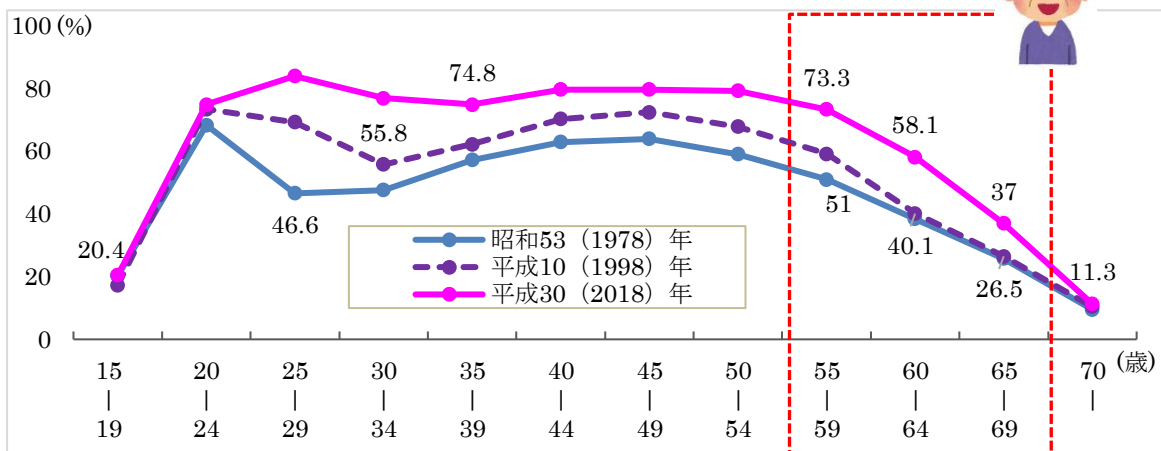




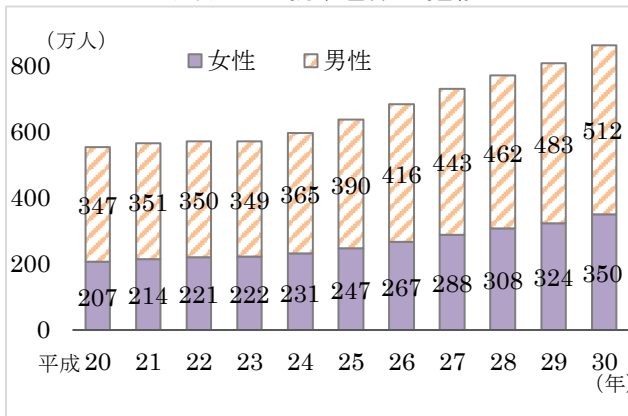
## あなたは何歳まで働きますか？

総務省の労働力調査によると、15歳以上のすべての女性のうち、働く人の割合が51.3%（平成30年平均）となり、昭和43年以来50年ぶりに5割を超えました。出産や育児によって職を離れ、30代の就業率が低くなる「M字カーブ現象」が解消しつつあります。働く女性が増加するとともに働く高齢者の割合も増加傾向です。

女性の年齢階級別労働力率の推移



65歳以上の就業者数の推移

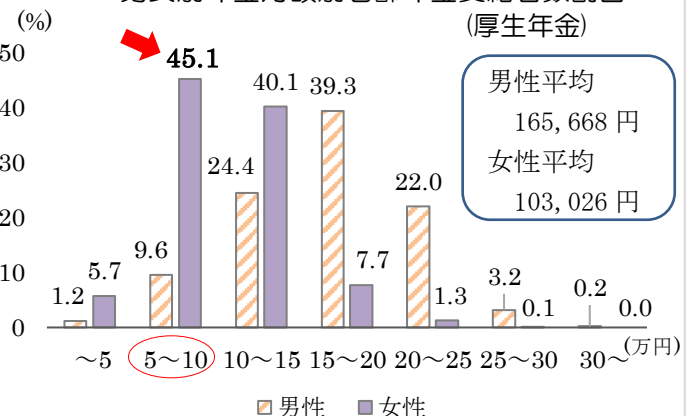


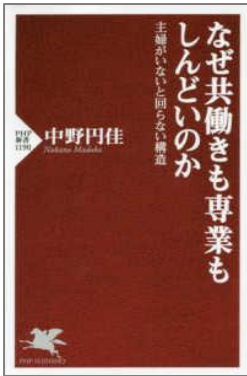
平成20年と30年を比較すると女性は1.7倍、男性は1.5倍に増加。

「老後の生活設計と公的年金に関する世論調査」で「何歳頃まで収入を伴う仕事がしたいか」の問いに対し、「61～65歳」と答えた人が30.7%と最多で、「66～70歳まで」と答えた人は21.5%となりました。66歳以降も働きたいと答えた人は、「仕事をするのが好きだから」（16.9%）などのほかに、経済的理由が5割を超えました。

公的年金・恩給を受給している高齢者世帯の半数以上が、収入は年金等のみです。女性の多くは、雇用が不安定で賃金も低く、また、育児・介護で離職するなど就労期間も短いため、男性に比べると年金の額も低くなります。厚生年金の平均受給額は、男性約17万円、女性約10万円（基礎年金含む 平成29年度末現在）。女性の45%が5～10万円の分布に入っています。国民年金は約5万6千円。「人生100年時代」を迎え、就業機会の拡大や賃金面や管理職比率などでの男女格差の改善が望まれます。

男女別年金月額別老齢年金受給者数割合 (厚生年金)





### なぜ共働きも専業主婦もしんどいのか

中野円佳著  
PHP 研究所 2019

共働きでも専業主婦でも子どもがいる女性がしんどいのは、主婦がいなくて生活が回らない社会構造にあると言う。政府、企業、学校や保育の在り方そして人々の意識。シンガポール在住の著者が日本の働き方の矛盾と変化の兆しを読み解く。



### <性>なる家族

信田さよ子著  
春秋社 2019

家族における性の問題は、語られることなく置き去りにされてきた。しかしそこから見えてくるものこそ、家族の未来を考えるために欠かせないものである。性虐待からDV、セックスレス、不妊治療、セクハラまで取り上げている。長年のカウンセリング経験をもとに、性にまつわる力関係を指摘。

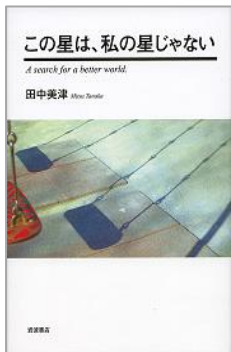
## 新着図書紹介



### 親から始まる ひきこもり回復

榎田智彦著  
ハート出版 2019

深刻化する 8050(ハチマルゴーマル)問題。なぜ、ひきこもりは長引くのか?心理学的な裏付けを中心として、ひきこもるわが子への考え方や回復への全体像を5つのプロセスで解説。最初に着手すべきは就労・就学支援ではなく「何よりも先に親子関係を回復させる」こと。



### この星は、私の星じゃない

田中美津著  
岩波書店 2019

1970年代ウーマンリブ運動の先駆者だった田中美津。5歳の時に受けた性的虐待の経験に一生を左右されたという。30年以上に渡り、鍼灸師の仕事をして、「この星は、私の星じゃない」と呟きつつ、全身全力でこの星に立ち続けてきた著者。その折々に紡いできた言葉を一冊の本に編んだ。



### ジェンダーについて 大学生が真剣に考えてみた

一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同著  
明石書店 2019

『男女平等っていうけど、女性も「女らしさ」を利用しているよね?』『フェミニズムって危険な思想なんじゃない?』『女性専用車って男性への差別じゃない?』。実際に投げかけられた29の質問に「大学生の視点」で回答。読みごたえあり。

## テーマで読む1冊

### 55歳からのリアル仕事ガイド

松本すみこ監修

先行き不透明な不安に満ちた定年後。仕事、お金、健康…。定年後はどんな働き方をすればよいのでしょうか。本書では、定年を迎えた後、様々な職場で働いている人たちにインタビュー。その仕事に巡り合ったきっかけや仕事に関する苦労と喜びを語ります。また、「現役時代の仕事を生かしたい」「新たに資格を取って働く」「好きなことで生きる」など、働き方によって項目を分けて紹介。資格&仕事ガイドも充実。(朝日新聞出版 2018)





# 時代を拓いた女たち

遠藤 清子

明治 15 年(1882 年) ~大正 9 年(1920 年)

清子(本名清)は明治 15 年 3 月、東京芝高輪に木村信義の長女として生まれる。母とは 2 歳の夏に死別。父は士族であったが、維新後、神田表猿楽町で漢学を中心とした私塾を開いていた。明治 26 年、清子が 12 歳の時、500 坪もあった家が焼失。再建に父は手を尽くしたが、私塾も漢学中心の時代は過ぎており、家運は傾くばかりだった。そのころの清子は、英語も独学で読める早熟な少女だった。13 歳で祖母の生家を継ぎ、遠藤家の戸主となる。明治 29 年、東京府教育会附属小学校伝習所に入学、明治 31 年、小学校尋常科準教員の免許を得た。兄は家を出たので、父と二人の生活を支えるため教員として働き始める。木村家の墓参りのため、日暮里に出向いた明治 37 年、巡査に怒鳴られていた女性が配っていたピウの文字を目にする。「治安警察法第五条改正請願」。清子の記憶に強く残ったこの言葉の意味を知るのは、電気通信社の記者中尾五郎と出会ってからである。

明治 33 年に発布された治安警察法は、女性の政治参加の一切を禁じていた。中尾から、治安警察法改正の請願運動の中心であった今井歌子を紹介される。今井歌子その人こそ、ピウを配っていた女性だった。この出会いが清子の運命を変えていくことになる。新聞社の記者となっていた清子は、その職を辞し、この運動にのめりこんでいき、中心的な存在となる。街頭に立ち演説をし、ピウを配り、貴族院や衆議院に出入りする。明治 42 年、徹夜で仕上げた 3 度

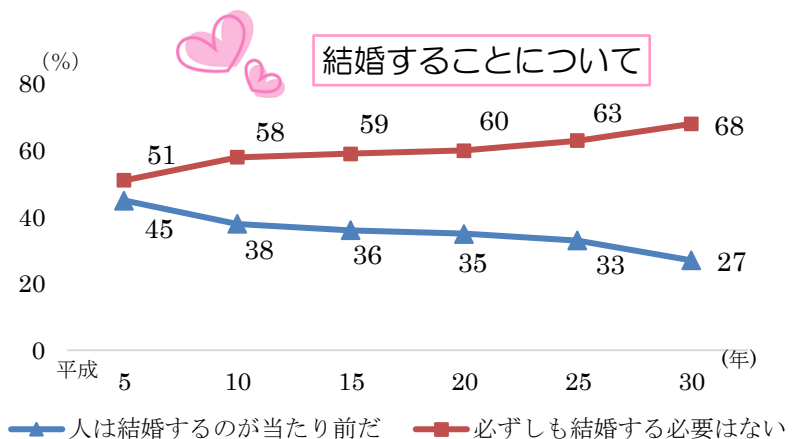
『愛なくして男と結婚することは、  
自分はずかしめ また男を  
あざむく罪悪だと信じています』

目の改正法律案が、貴族院で却下されると清子は深い絶望感にとらわれる。ちょうどそのころ、妻子ある中尾との関係に行き詰っていた。別れを告げられた清子は海に身を投げるも漁師に発見され一命をとりとめる。この年の暮れ、清子は、今井歌子の紹介で妻と別居中の岩野泡鳴と知り合い、一緒に暮らし始める。精神的な恋愛ののち性愛がくると主張する清子と性愛こそ男女の愛の中心とする泡鳴との風変わりな同居生活は「霊が勝つか肉が勝つか」と話題になった。

明治 44 年、「青鞥」創刊。生田長江の紹介で早速入社した清子は、青鞥に小説や論文を次々に掲載。大正 2 年 2 月、「青鞥社第 1 回公開講演会」が開かれ、清子は女性でただ一人講演し、「人類として男性と女性性は平等である。女の差別は社会制度がもたらしたものの。ゆえに女は思想上はもちろん経済的にも独立せねばならぬ」と説いた。この年正式に結婚。大正 3 年長男民雄が生まれるが、翌年泡鳴は、若い青鞥社員と恋愛関係になったため家を出ていく。清子は夫に対して同居請求の訴訟を起こし、逆に泡鳴は離婚請求の訴訟を起こす。この裁判の最中に、6 年余の夫との関係を書いた「愛の争闘」を出版した。裁判に清子は勝訴するが、離婚。愛がないのに妻の座にこだわったと批判にさらされた清子は、「婦人の権利向上のため」と反論した。後年、洋画家の遠藤達之介と同棲、長女を生むが、達之介の実家のある京都で急死。まだ 39 歳だった。

参考資料：「自らを欺かず」「先駆者たちの肖像」

結婚することを「必ずしも必要はない」と考える人は平成の時代に増え続け、平成 30 年には 68%にも上りました。割合としては 30 代が最も高く、最も低いのは 70 歳以上です。逆に「結婚するのが当たり前だ」と答えた人の割合は減り続けています。未婚・晩婚化も進み、結婚に対する考え方も多様化しています。しかし、戦前の家制度の名残や社会慣習はまだ人々の意識に根強く残っています。結婚により夫の姓に改姓する女性は約 96%(平成 27 年)です。



参考資料：NHK「日本人の意識」調査(平成 30 年 7 月)

# にゅーすBOX

## 子供・若者白書

令和元年版「子供・若者白書」が閣議決定した。女性が家庭に入るべきだと思わない若者が約半数に上り、5年前の調査よりも約10ポイント増加。若者は、従来の性役割の意識にとらわれず、男女平等の意識が浸透してきていることが明らかになった。また、白書ははじめて自宅に半年以上閉じこもっている「ひきこもり」を特集。40～64歳のひきこもりは全国で推計61万3千人。ひきこもり状態になってから7年以上経過した人が5割近くを占めている。

## 高齢社会白書

令和元年版「高齢社会白書」が閣議決定した。全国の60歳以上を対象にした内閣府の調査では、3人に1人が「孤立死」について身近に感じると回答。未婚の人は「とても感じる」「まあ感じる」と答えた割合が計49.4%と高かった。白書には、高齢者の運転に関する調査結果も盛り込まれた。回答した80歳以上の26.4%が運転し、うち、58.7%がほとんど毎日運転していた。

## 改正虐待防止法・児童福祉法等が成立

親による体罰禁止を明文化した改正児童虐待防止法と改正児童福祉法が成立。児童相談所の体制強化や関係機関との連携強化も盛り込まれた。

また、配偶者からの暴力がある家庭は子供も虐待される事例が多いことを踏まえ、「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律(通称：DV防止法)」も一部改正される。

## 児童虐待 最多16万件

厚生労働省のまとめで、全国の児童相談所で平成30年度に対応した児童虐待件数(速報値)が前年度比19.5%増の15万9千850件に上り、統計開始から28年連続で増え続けていることが分かった。厚労省は「虐待事件への認知度が高まり、市民から

の110番が増えているとみられる」と説明。

東京都は虐待防止へLINE相談窓口を昨年11月2週間試行したが、8月からは通年で実施する。



「子ゴコロ・親ゴコロ」相談@東京

## 練馬区と都 連携強化 テレビ会議システム

練馬区と東京都は、6月から、テレビ会議システムを活用した児童相談体制強化に向けた取組みを開始した。今回の取組みは、連携強化の一環として、東京都が練馬区の区子ども家庭支援センターと都児童相談センターをつなぐテレビ会議システムの運用を都内で初めて試行するもの。テレビ会議を活用して「見える」情報共有を行い、複数職員の双方向のコミュニケーションを図り迅速な対応を進めていく。

## 高齢者世帯 過去最多

厚生労働省の国民生活基礎調査で、65歳以上だけで暮らしているか、65歳以上と18歳未満の未婚者がともに暮らす「高齢者世帯」は1千406万3千世帯(前年比84万増)と過去最多を更新。所得は公的年金・恩給を受給している高齢者世帯のうち「年金と恩給が収入のすべて」の世帯は51.1%を占めた。

## がん不妊助成 14府県に

若いがん患者が治療後に子どもを産める可能性を残すための、精子や卵子の凍結保存への公的助成制度を埼玉、岐阜、滋賀、京都、広島、香川の6府県がすでに導入し、新たに8府県が制度の創設を予定していることが厚生労働省研究班の調査(今年1～5月時点)で分かった。凍結保存費用は1回数万～数十万と高額で公的医療保険が利かない。

## 女性就業者3千万人突破

総務省の令和元年6月の労働力調査によると、女性の就業者数が3千3万人と、比較可能な昭和28年以降で初めて3千万人を超えて過去最多を更新。女性の就業者を年代別にみると、65歳以上の伸びが目立ち、平成21年平均と比べて145万人増えた。一方、65歳以上の就業率は17.7%で男性(34.3%)と比べて低く、引き続き増加が見込まれる。

## 女性当選数 地域に差

7月の参議院議員選挙では、当選者124人のうち女性が28人で、過去最多だった平成28年の参院選と並んだ。東京、神奈川、大阪選挙区では改選定数の半数が女性となったが、九州はすべて男性が占めた。東京選挙区では改選定数6のうち3議席を女性が獲得し、過去最多。

## 「リケ女」 増えにくい環境

平成30年度の大学の理学部に占める女子の割合は28%、工学部では15%にとどまった。内閣府が公表した「男女共同参画白書」では、理工系に進む女子が増えにくい現状と進路選択の在り方に焦点を当て、「身近に理系分野に進んだ女性が少ないなどの環境が影響している」と分析している。

## ILO ハラスメント全面禁止条約採択

国際労働機関(ILO)は、6月に職場でのセクハラやパワハラなどのハラスメントを全面的に禁止した条約を採択した。労働者だけでなく、実習生や求職者、ボランティアなど幅広い対象を保護する。ハラスメントを巡る初の国際基準となり、批准すると国内法の整備が求められるが、批准するかどうかは各国の判断に委ねられる。

